

令和5年度

引野中だより

校訓

自主自律
文武両道

第12号
学力特集号

校長 峯 隆幸

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

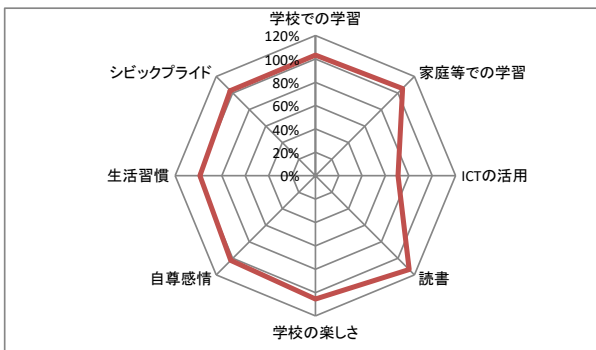
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語	○平均正答率は全国平均を上回っているが、「書くこと」に関する問題の正答率が全国平均を下回っている。 ○我が国の言語文化に関する事項（古典等）に関する問題の正答率が高い。	上回っている
数学	○平均正答率は全国平均を上回っているが、関数の問題や数と式の問題の中で全国平均をかなり下回っている問題もあり、偏りがみられる。 ○基本的な数と式の問題に関する正答率は高くなっている。	上回っている
英語	○平均正答率は全国平均を上回っているが、数問、わずかに全国平均を下回っている問題がある。 ○「知識・技能」をいかして文章の要点を捉えることには多少課題がみられる。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○読書については、10分間の朝読書に取り組んでおり、読書の好きな生徒の割合が全国平均を上回っている。1日の読書時間においても全国平均を上回っているため、今後も学校図書館の整備やNIE（新聞活用）の取組を推進することで、インターネットだけでなく、書物や活字から情報を得て活用できる能力の育成を目指したい。
○自尊感情に関する質問の肯定的回答が全国平均を上回っているため、今後も充実感や達成感を味わえる学校行事、特別活動の充実を目指す。
○生活習慣に関する項目が全国平均を下回っている。保健体育や技術・家庭科等の教科指導や、給食指導での食育などを通じて、日常的に食や睡眠の重要性、生活リズムを整えることで心身の健康が保てることを伝える。
○ICTの活用については、生徒がその有用性を実感しているため、学校全体でICTに活用推進に重点的に取り組む。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○授業においては、積極的にICTを活用し、教科の特性に応じて「自分の考えを人に説明したり、文章に書いたりする取組」として話し合い活動の機会やプレゼンテーションする場設定し、取り組ませる。

○知識・理解を深めるだけでなく、目の前の事象に結び付けて説明させるような学習活動に取り組ませる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○早寝、早起き、朝ごはんなどの基本的な生活習慣について、その重要性を改めて、生徒、保護者に呼びかける。

○スマホの使用時間、SNS等の活用について、ネットトラブル防止用啓発資料などを配布、活用しながら、家庭でのルールを明確にするよう各家庭に呼びかける。